

はこだて国際科学祭2022 キックオフ

みんなで作る  
はこだて国際科学祭

サイエンス・サポート函館 (SSH)

美馬 のゆり

2022.01.23

# はこだて国際科学祭

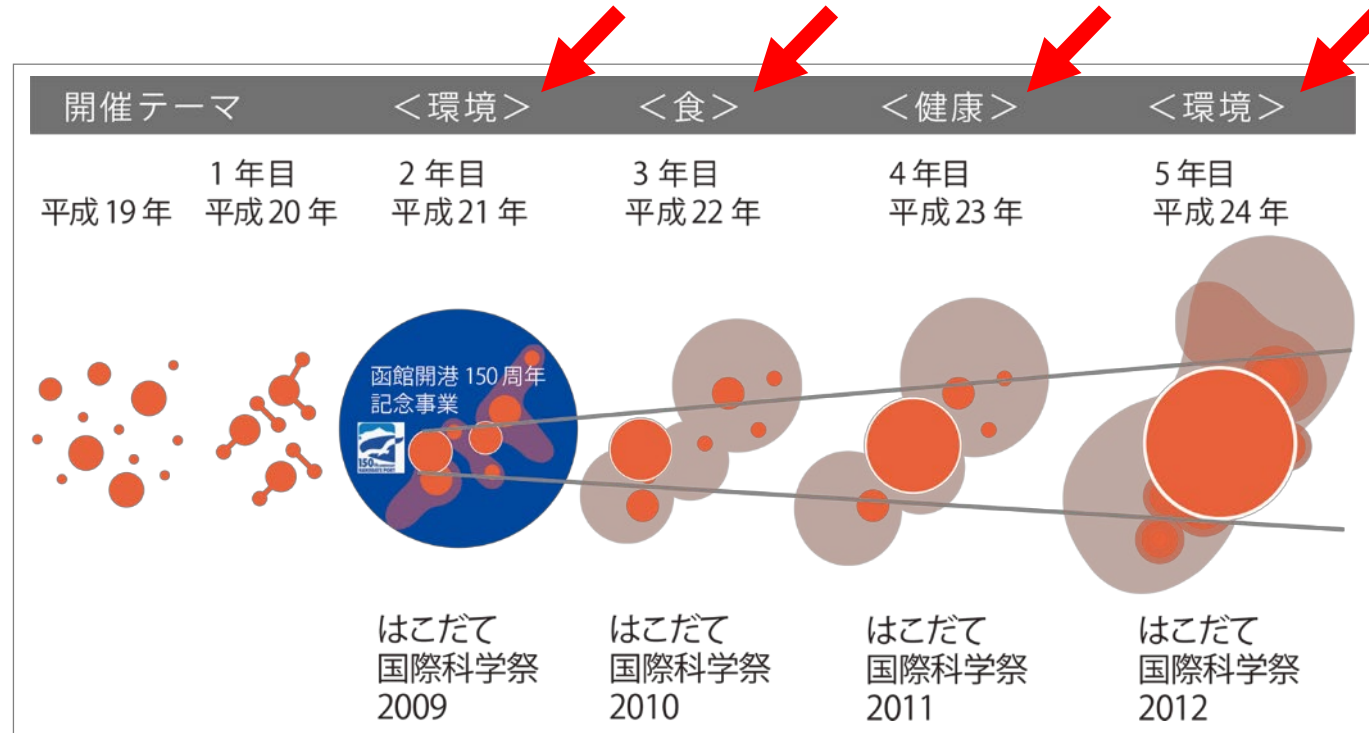
子どもから大人まで、素人から専門家まで



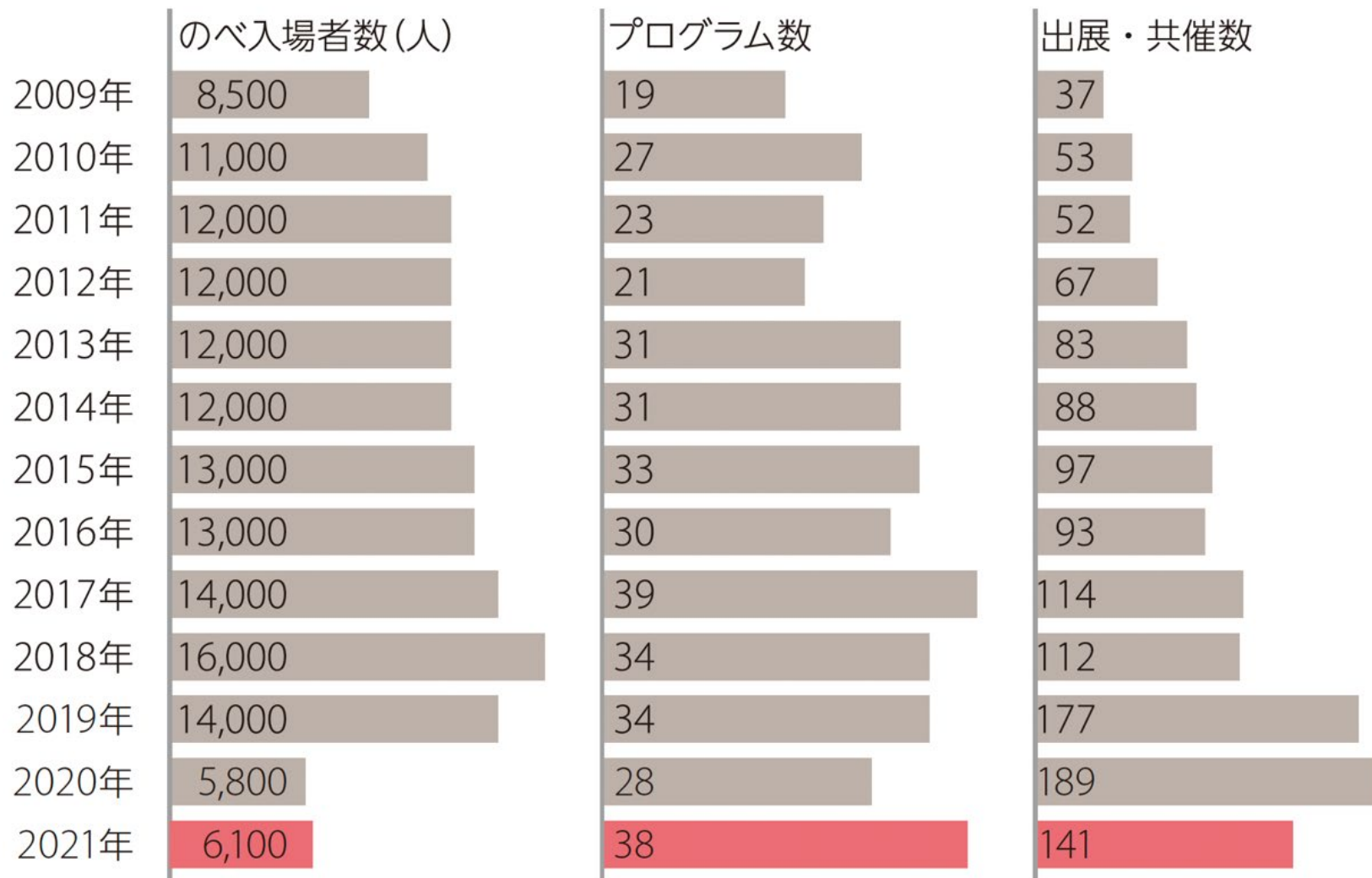
# はこだて国際科学祭

(2009～)

- すでに活動していた人たちをつなげ
- 年に一度の大きなイベントを開催



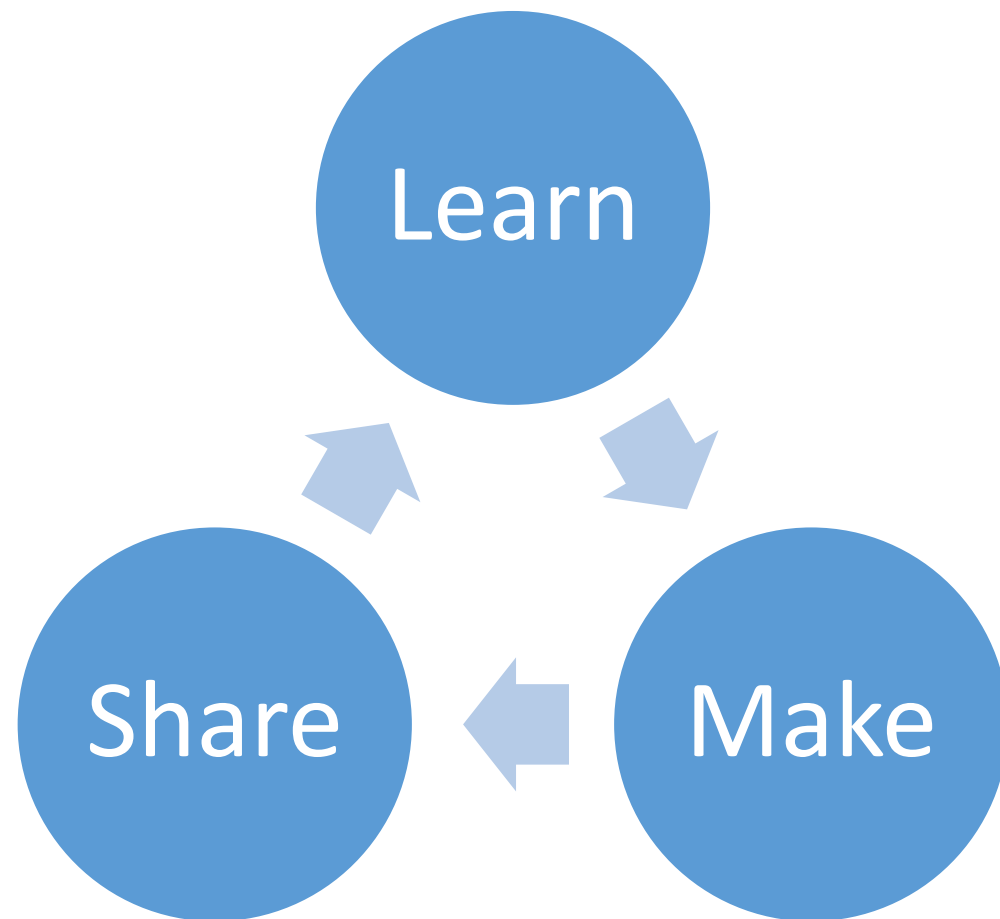
# 科学祭開催実績



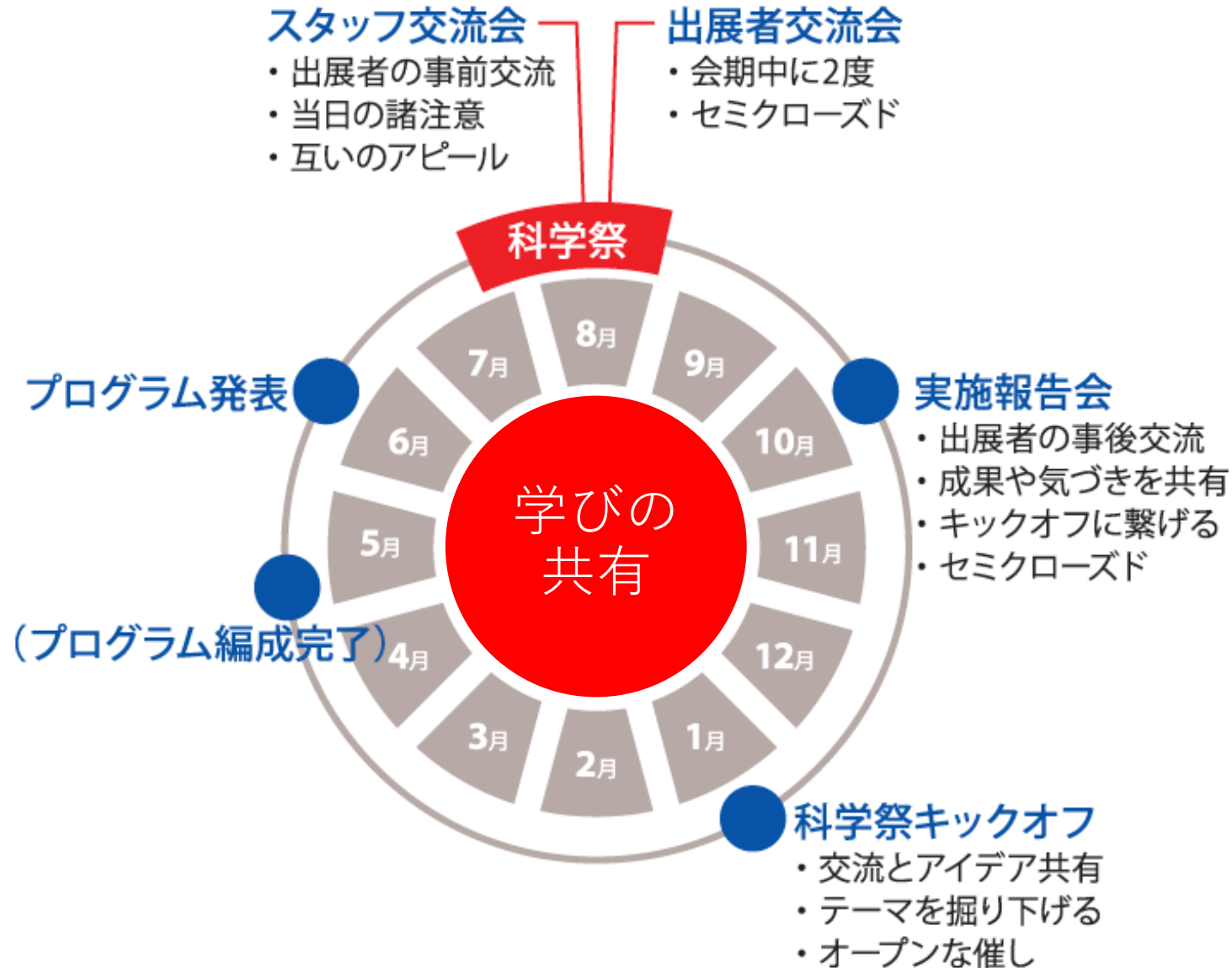
# 三方よしの発想で

- 20年後の函館を考える
- ひとつづくりから始まるまちづくり
  
- 持続可能な方法、内容を考える
  - 実施する人にとっても良い
  - 参加する人にとっても良い
  - 函館の未来にとっても良い
  
- 大人のアクティブ・ラーニング！

学んで、つくって、共有する



# 科学祭の学びのサイクル



# サイエンス・サポート活動指針

よりよい社会を実現するために

## 活動指針その1 「科学をまちに出す」

- 身近にある科学を見つける
- 研究室にある科学を持ち出す
- 科学と縁遠い人たちに接近する

## 活動指針その2 「みんなで話をする」

- 新しいことを知り周囲に語る
- まわりを巻き込み形にする
- 楽しみながら役立てる

## 活動指針その3 「函館から世界を変える」

- 世界で起きていることに目を向ける
- 足元にある課題を見つけ解決する
- よりよい地球市民となる



# 科学イベントのつくりかた

- 物語る（アイデア、ビジョン、インパクト）
  - イベント開発の目的
    - 来場者・参加者に伝えたいこと、take home message
  - その目的に至った理由
    - 問題意識：函館が抱える課題、社会の認識の問題
  - 参加者や社会に対する影響
- つくる過程でこだわりたいこと、工夫すること
  - 5W1H
  - 手法として
  - 内容として（函館らしさ、北海道らしさ）
  - 空間・配置・動線・他のイベントとの関係
  - 予算やスケジュール、体制について
  - 外部関係者（協力研究者、企業など）との協力や交渉
  - 内部関係者（他のイベント、チームなど）との協力や交渉
  - 周知の方法



例年は

# イベントの種類

- サイエンスショー
- 実験教室、ワークショップ
- 科学屋台（体験型、対話型展示）
- 展覧会（20枚の大型パネル展示）
- サイエンスカフェ
- キッチンサイエンス（科学の視点で調理）
- サイエンスツアー（科学の視点で地域歩き）
- サイエンストーク（高校生の発表交流会）
- サイエンスダイアログ（ゲストとの対談/鼎談）
- サイエンスライブ（音楽＋科学）
- 科学演劇
- 講演会など



例年は

# 主な開催場所

- 観光スポット
  - 五稜郭タワーアトリウム
  - 港の庵
- 生涯学習施設
  - Gスクエア
  - 青年センター
  - まちづくりセンター
  - 亀田交流プラザ
  - 大沼国際セミナーハウス（七飯町）
- 文化施設
  - 中央図書館（ホール、カフェ）
  - はこだてみらい館
  - 函館市縄文文化交流センター（旧：南茅部町）
  - 千代台公園運動場
- 大学/研究施設
  - 国際水産・海洋総合研究センター
  - 道南農業試験場（北斗市）
  - 函館大学ベイエリア・サテライト
- その他
  - 競馬場など

# オンライン開催に向けて

- 三密を避けつつ、三方よしの発想で
- 一方向型
  - リアルタイム配信／オンデマンド配信
  - 期間限定する／しない
- 双方向型
  - 参加者が事前に準備要／不要
  - 主催者が事前に参加者にキットなどを送付／しない
- オープン／クローズ
  - 事前登録なし／あり

# 2022年テーマは「食」

基本  
オンライン  
開催

- 2022年8月20日(土)から28日(日)まで
- 育成、収穫、加工、流通、調理、食事、廃棄など
- 過去の科学祭に関する情報 <https://sciencefestival.jp/about/>

